

平成28年度 新発田市・北蒲原郡道徳部 活動報告

部長 佐藤 武志

1 研究主題

「新しい道徳教育のあり方」

2 研究の概要

<第1回部会> 役員・テーマ決め

<第2回部会> 模擬授業・講演会

「新しい道徳教育のあり方について」

講師 新潟市立早通南小学校 教諭 渡邊 泰治 様

<第3回部会> 授業研究

「熊本城を再建する力」【郷土愛】

授業者 新発田市立外ヶ輪小学校 教諭 梅津 恵里子（5年2組）

3 研究の実際

(1) 第2回部会 模擬授業・講演会

① 渡邊 泰治先生による模擬授業

花と昆虫の写真家 田島 隆宏さんの撮影した写真の提示、体が不自由な田島さんの紹介、田島さんの詩の中の言葉を考える活動に、子どもは興味を持って自分の考えを出していった。参加者は、子どもの興味をひく内容、写真や映像での提示の仕方など、資料との出会いが大切だと学んだ。

② 講演会「道徳の教科化に向けて」

道徳の授業の際に、体験的エンカウンターを取り入れること、総合単元的な道徳では環境や福祉の分野が取り組みやすいこと、低学年では何を学ばせたいかを明確にして絵本を資料にできること、高学年は特に魅力的な人（ゲストティーチャー）から学ぶとよい、といった実践のヒントを得ることができた。

(2) 第3回部会 授業研究

① 授業から

熊本地震によって日本の名城の一つである熊本城が崩れ落ちた。お城だけでなく一般の家ももちろん大きな被害を受けた。災害復興を進めていく上で子どもたちは、まずは日常の生活を回復し、熊本城の再建は後からでよいと思われる。

しかし、熊本の人々は、熊本城の再建を急いだ。この意識のズレをもとに子どもたちに問いを生ませ、熊本城を大切に考える県民の郷土愛に気づかせていくことをねらった授業であった。



② 協議から

協議会では、資料提示の工夫、問いを持たせる工夫、自分事としてとらえさせる工夫の3点について協議した。その中で、プレゼンテーションを用いることで子どもたちの興味を引きつけることができるが、その際子どもたちの意識のズレを生ませる工夫が必要であることが分かった。また、資料を通して学んだことと自分たちの活動を結びつけるためには、子どもたちの意識を大切にすることが必要であることが分かった。

4 成果と課題

第2回と第3回の部会の指導者を渡邊 泰治先生にお願いし、豊富な研究と授業実践からたくさんのお話を学ぶことができた。この研修で学んだことを生かして、「資料提示」「問いを持たせる工夫」「自分事として考える」をキーワードとして梅津教諭が授業を公開し、関連した研修がなされたことは大変有意義であった。